

意見交換会報告書

意見交換会の議題	避難生活施設運営委員会の取り組みについて
意見交換会の相手先 (団体名等)	避難生活施設運営委員会
参加人数	35名
開催日時	平成29年1月24日(火) 午後3時00分～午後4時30分
開催場所	大和市議会 全員協議会室
担当議員	座長：青木正始 司会者：宮応扶美子 記録者：佐藤正紀 出席者：山田己智恵 大波修二 小倉隆夫 菊地 弘 木村賢一
要点等	別紙のとおり

大和市議会議長様

平成29年 6月 21日

大和市議会意見交換会実施要領第8条の規定により提出します。

意見交換会座長 青木 正始

総務常任委員会 意見交換会

あいさつ

自己紹介

総務常任委員長

まず大項目1として「避難生活施設運営委員会とは」と題して「目的と取り組みについてどのような思いや考えをお持ちなのか」、「目的と取り組み、思いを実行するためにどのようなことを行っているのか」、「自助・共助・公助についてどのようにお考えがあるのか」についてお聞きしたい。

上和田小学校・県立大和南高校 渋谷会長

私たちの地域は、他の地域とは比較した事はないが、近隣の住民が集団で避難する場所がない。例えて言うならば引地台公園のような大きな空き地がないので、日頃からご近所の農家の方と話し合いを持ち、実際、今活用している畑を利用して避難をするようにということを日頃から自治会員の方々に指導している。

たまたま、その畑の近くが上和田小学校ということで、そこを避難生活場所として今、活動を広めているけれども、道路の事情があまりよくない。道路で四方を囲まれていて、藤沢町田線、丸子茅ヶ崎線、裏は丸子茅ヶ崎線から上和田団地に抜ける裏通り、その真ん中に所在している。従って、住民の方には日頃から防災活動に参加すると同時に上和田小学校への避難を勧めている。

しかし住民は一向にその気にならないという。非常に残念なことであるが、今現在も上和田小学校の運営委員の自治会長の皆様と、どのようにして皆さんに本気になって防災活動に参加してもらえるのかという事を真剣に考えて活動をしている。最近ではようやく、各戸に避難時にどうしても必要な名簿の記入を進めている。やっとそこまでたどり着いたところだが、秘密、個人情報、これがネックで、それが思うように進んでいない。しかしながら平成28年、29年と名簿の記入を一生懸命努力して、今指導をしてもらっている各自治会長さんに、時間はかかるが、名簿への各戸の記入をお願いできる状況になりつつあるという現状である。

それから自助・公助については、やはり個人の方々が公助の方へ気持ちが頼り過ぎていくということが窺える。特にトイレに関しては、全くの無防備な状態で、自治会でも親和会の自治会としては、人数分には達しないが60から100の使い捨てのトイレを用意しており、やはりトイレについては、個人の方が重要視していないところがある。

総務常任委員長

私も防災訓練を開催したときに参加される人が、いつも限られた人が多いと思うところ

があり、いかに啓発して参加を促すようなことができるのかを消防団員として考えている。

上和田小学校・県立大和南高校 渋谷会長

とても苦勞している。

木村委員

私も上和田自治会にいますので2点ほど同感の部分があり、話しをしたい。

先ほど避難場所が非常に少ないと、その中で近隣の農家の畑を利用させてもらって、万が一の時には使えるようになっていたとの話だった。これについては市内どこでも希望するところという訳ではなく危機管理課で現場をよく見て、ここだったら是非、周辺住民のために必要だということを選んでもらう。残念ながら今現在、北の方の下鶴間に一か所と、親和会さんの周辺に二か所ぐらいということで、市内全域に増やしていきたいということのようだが、中々これが広がっていかない。一昨年の10月1日にスタートしたけれども、いわゆる防災協力農地登録制度ということで、今日ご参加の皆さんの会長さんのお住まいの周辺で有効な畑があるかと思う。是非、自治会さんを通じて今後、地主さんをお願い等をしてもらい、最終的には危機管理課と調整してもらい、渋谷会長が言われたように、避難場所が離れてしまって、万が一の時には、そこまでたどり着くのは非常に大変だという場合、こういう農地は有効に利用できると思うので、他の会長さんにも周辺の農家さんに積極的にお願いできればと思う。

あと1点。名簿の件で、個人情報の中で名簿を取るのが中々進まない、これも万が一とか、ほぼいつかは確実に大地震が起きると言われているが、我々上和田自治会で、名簿の更新をしたくても、5年前に作った名簿を更新したいと思っても登録する方が、どんどん減ってしまう。そのため、5年、7年前に作ったけど、最近つくりたくて、そういうものを廻すと今までの会員数より減ってしまい、しばらく作れない状態になっている。防災に関しては、そんなことを言ってもらえないので、大変な苦勞はあると思うが、よろしく願います。

大和小学校 平本会長

中項目1、2、3、全部答えられるか分からないが、「目的と取り組みについて」である。市で作成している「避難所運営マニュアル」を、自分たちに合うように避難訓練を通して毎年マイナーチェンジをしている。マニュアルには活動班が7つくらいある。大和小学校をとりまく自治会は、今年オハナという自治会がイトーヨーカドーの東側に新しく出来て、8つになった。それまでは7つで、毎年1つずつ活動班を経験して、ローテーションすると7年で全ての活動班を経験出来て、あのマニュアルがより実践に即したものとなることを目的でやっている。今も一つ増やして8つでやっている。

平成27年度から始まって3年目に入るが、過去2年間、宿泊訓練を行って活動班の良

かった点、悪かった点を次年度の自治会に引き継ぐということを行っている。このまま続けようと思う。より実践に即して、今までは代表者しか来なかったが、今度は一般の自治会員の方にも来てもらい、少し訓練に参加してもらおう。避難所には前期・中期・後期の全てに生活するわけではなくて、とりあえず避難所に来て何日か生活したら戻ると、そういうことの繰り返しなので、とりあえず200人規模の収容人数で活動できるという機能の算定に基づいて、いろいろと行っている。

大和小学校前会長 鈴木会長

平本会長の発言に補足する。2年間訓練をやって、市のマニュアルは標準で役に立たない。最初50ページのマニュアルが今年12月で120~130ページくらいになった。やればやるほどいろんなことが出てくる。特定の人しか使えないマニュアルはいらぬ。そうじゃないと誰もついてこない。これを7年続ければ大和小学校はすごい資料が出来ることになる。

南林間小・中・県立大和西高校 森園会長

避難生活施設運営委員会というのは、去年ぐらいから避難生活施設立ち上げという形に名称が変わった。ここでは避難生活施設運営委員会となっているが、どちらが正しいのか。

山田委員

国の方からは避難所と言われているけれども、大和市としては分かりやすく避難生活施設となっている。快適なくらしが出来るためのガイドラインということで、大和市では、この言葉で全部統一されている。

南林間小・中・県立大和西高校 森園会長

避難生活施設運営委員会を7年くらいやっている。市から黄色いマニュアルが必ず来るが、検証しようと捉えさせていただいた。マニュアルに沿って今年の8月に組織の立ち上げを実際に試みた。委員と地域の方と先生方と70から80人規模になった。初動訓練、安全のチェック、体育館の区切り、自家発電、放送施設、防災訓練、仮設トイレをどこにするか、受水槽の確認とかなり大規模に行ったが、マニュアルが良いか悪いかではなく、まず行ってそこから検証していくことが一番必要ではないかと感じた。これで分かったのは自家発電がどこにあるか、殆どの方は知らなかったこと、仮設トイレの置き場所がなくて慌ててしまう。避難所訓練と防災訓練を混同している人がいる。避難所は災害に遭った人が集まって、それからどうしようかというものであり、徹底的に啓発してもらいたい。

自助・共助・公助という意識は私たちの地域には根付いているように思う。しかし行きつくと、実際は崩れかかった家から逃げるときに黄色い紙を貼ろうよという話が出てくる。でもそんなことをしていたら自分の命が助からない。では、誰が共助になるんだろうとい

う意見もある。まずは避難生活施設はマニュアルに沿って実施することが必要と感じた。

西鶴間小学校 渡辺会長

自家発電については危機管理課を交えて話している。一番初めに大事なものは水だと思う。地震が起きたら貯水タンクから水が流れ出ないように中止弁を止める。

第2番目には、名簿を書いてもらうことを考えている。自家発電については危機管理課にお願いしている。体育館の裏にある。教えてもらってボタンを押せば照明が付く。照明も体育館を照らすのみの限られた照明である。

後は、あの狭いところに10人も入ってきたらどうするか。A、B、C、D、Eに区切っているのか。その中に10人も入ってきたら大変なことになるという悩みがある。

あと1点は、2年くらい前に、台風が来た時に南鶴間の境のところに水が溜まってしまふ。大和圃場が整備されると水がなくなると思うが、大雨が降った時に避難所を2回作った。幸いにして水があまり溜まらなかったが、その中で生活あんしん課の担当者が3名ほど一晩常駐してもらった。

大和圃場が整備されれば洪水はなくなると思う。

大和小学校前会長 鈴木会長

避難施設の話があった。大和小学校の受水槽が壊れているのをどうするのか。危機管理課に訊くと数年先とのこと。この場をお借りしてお願いしたいのは、皆さんのお力で補修必要なところは全部直す。予算の迅速化、ぜひ今日はこれを第1にお願いしたい。雨漏りするなどの施設がある。そこで3日間すごす、こんな過酷なことない。我々運営委員会は現場を守るつもりでやっている。あと行政の力をいただくことはいただくと。それは事前に壊れているところはすぐ直すことをぜひよろしくお願いしたい。全部調べた方がいい。危機管理課にもお願いしている。受水槽は飲み物。市役所に取りに来るしかない。

渋谷小学校 武藤会長

先ほどから皆さんの話を聞いて、非常にいろんな情報、勉強になるなど聞いていたけれども、私の方で防災講話を開いて、渋谷小学校で第1自治会から第4自治会までの人、だいたい1200所帯だが、第1回目ということで77名くらい来た。渋谷小学校の体育館で危機管理課に来てもらって、こういうものだと話を聞いた。

その後にアンケートを取った。実際に皆さんに備えてあるもの、その項目を自分なりに考えて、まず6項目お願いしたが、一つ目は消火器をどのくらい持っているか。水、簡易トイレ、食料は備えてあるか。懐中電灯は備えてあるか、笛は持っているか。この6項目をアンケートを取って、出てきた回答が、消火器が64%、水が83%、トイレが42%、食料が75%、懐中電灯が99%、笛が52%。災害はいつ何時来るか分からないが、よく言われるのは、逃げ出せなかった時の倒壊家屋の下、笛を持っていれば、まず非常に役

にたつ。声が届かない時には笛をとって備えたところが50%。思ったより持っていたが、肝心の携帯トイレ。これは私は90%くらい持っていてほしいと思っていたけれど、やっと半分届かないということで、水とトイレと言うが、水よりも先がトイレである。今、こういう会議を行っていてもトイレである。水は我慢できる。でもトイレは少なかったということで、これは皆さんの意識の向上がまだ足りないということが一つ見えた。

うちの避難生活施設運営委員会は、高等町の第1から第4自治会まで一つになっているから、組織的には非常にやりやすいが、今、渋谷小学校リニューアルで工事が始まっており外は使えない。体育館だけということになっているので、来年また、こういった講話を持ち、違ったアンケートを取ろうというのが一つ。それと小学校がリニューアル出来たら、実際に組織が出来ているから、組織で項目ごとに一つずつ訓練を実行をしようと、今思っている。来年、再来年くらいである。それから一次避難場所を各自治会が持つ。一次避難場所から小学校へ行くのはいいが、一次避難場所には赤ちゃん、妊娠している方、車いすの人、そんな方の場合を考えると一次避難場所から後、どうやって動かしていくかと、私は今、非常に悩んでいる。とりあえずは一次避難場所は公園になっている。公園だと冬は無理である。それを考えるとどうしても屋根のあるところ、高座渋谷ではイコーザが出来たのは最近ですから、キッチンと出来ていると思う。中の電気・ガス・水道が止まったとしても生活するには非常にいい。そこが一次避難場所として出来ていない。あそこは公でなく民間だから。あそこを避難場所として市は動いてもらいたい。乳飲み子を抱えたお母さん、高齢者、動けない人、そうした人が避難するにはテントという訳にはいかない。

総務常任委員長

次に大項目2「避難生活施設運営委員会と地域の関わり合いについて」中項目1「地域との問題について、どのような取り組みを行っているのか」中項目2「地域と避難生活施設運営委員会との災害時の情報の取り扱いについて」中項目3「避難生活施設間の連絡について」などをお聞きしたい。

大野原小学校 村井会長

大野原小学校は2年目で私は2代目の会長をやっている。学校の関係で、子どもは大野原小学校だが、地域の関係で親御さんは草柳小学校や西鶴間小学校ということがある。その辺のことをどうするかということが運営委員会の中でも出てきた。学校からはあくまでも保護者に何かあった時には学校に迎えに来てと。委員会の立場では、私はどちらに行けばいいんだと。やっぱり孫はかわいいということになると、地域との関係についてもう一度見直しは出来ないか。西鶴間小学校に行かれた委員が大野原小学校に子どもが来ていると。地域は西鶴間小学校で矛盾があるけれども、是非、子どもがいる方の委員会の内容を知ってやってみたい。自助・共助と言いながら、自助があって出来るのであって、公助の前に自分を守らなければならない、身内を守るという大事なことがある。そういう意味でも

う一度見直しをしたいということで、会長と自主防災会の会長、各自治会2名ずつ来ていただくが、やはり仕事を持っていたりすると来られないという状況の中で、この辺のところ、もうちょっと何とかならないかと、委員会の中で出ている。それについては昨日も会議があり、平成29年度、新たな組織を作る時に私共は構成メンバーが半分変わる。一年の自治会長が結構多い。2年目、3年目と来ていただけないという話しをする時に、先ほどのマニュアルの中で各自治会から会長、それから自主防災会の会長なりという構成をとることになっており、どんどん増やすわけにもいかない。でもマンパワーがないと実際起きた時には対応出来ないじゃないかと。危機感を持つてるが、マニュアルと実態とギャップを感じているのが実態である。

桜丘小学校 小川会長

私共の地域は全部で8つの自治会が運営委員会を構成しているが、自治会に加入している方が私共の桜丘は1200世帯、トータルで3300世帯になる。加入していない人を含めると5000を超えるかもしれない。その中で桜小の運営委員会を、私の担当した2年で検討した中で実際に桜小に入れるのが200から300という感じである。ということから、果たしてこれでいいのか。というのは我々の桜丘だと、1200世帯の中で1つの自治会。5つの自治会があるところからすると全然動きが取れない。それと運営する我々の自治会の方からすると区長が今みたいになっているが、自治会の役員のなり手が少ないという中で、今の自主防災会の運営自体もすごく難しい。具体的に動き出していないというのが現実。今年の3月までには何とか出来るのではないかと期待はしているが、そんなところを一つひとつ形をつくっていかねばと思っている。先ほど他の方も言われたが、自治会によっては一年一年、会長さんが代わられてしまう。ということは自主防災会の会長も代わっているはずである。桜丘小学校の場合は2年やって下さいということで進めているが、関わる人が高齢化する中で難しくなっているというのが現実である。広域になっているので、そのまとめが出来ないというようなことが状況である。今後については、問題は山積みで、一つひとつ解決していくつもりである。

光丘中学校 下田会長

避難所からの連絡についてということだが、いざという時に役所との連絡がつくのか分からないけれども、横の連絡、せつかく28立ち上がったので、横の連絡の連絡協議会のように、今回、このような場を作ってもらい顔つなぎが出来るチャンスだと。これを年に一、二回、各避難所の会長なり運営委員長の組織を立ち上げていただきたい。いつも危機管理課には言っているが、中々出来ない。いざという時に隣の会長を知っていれば、もし食料が足りないとか人が増えてそっちに回りたいとか、役所を通さなくても、顔つなぎが出来ればいい。是非そういう場を作っていただきたい。

木村委員

今の会長の関係で私も事前に総務常任委員会委員7人で勉強会をしたが、その中で、運営委員会の設置が一番早くスタートしたところが平成22年の5月ということで、今現在27運営委員会があり、最終でも27年の8月に出来ているということで、これを見ると5年の取り組みの年度の差があつて、平成22年でスタートしたところ、中央林間小学校のようだが、こちらは恐らく相当進んでいる。実際の活動にしてもそうかと思う。今、会長が言われたように、この取り組みについてもかなりの差があるかと思う。その辺はどうなのかということで、危機管理課に確認したところ、是非この機会を利用して横の連絡で、かなり進んでいる運営委員会と、まだこれから取り組んで具体的にやっていくと言われる方、是非皆さん同士の27の交流を積極的に進めていただきたい。その方がいいだろうということと、危機管理課もそうあつて欲しいと、年に1、2回だろうと全体の27の運営委員会の方が市の会議室でもいいし、どこか場所を選定してもらおう。それで当然危機管理課も中に入って、皆さんの話しを聞きながら、出来るものから進めるということで、ごく最近確認しているので、是非この機会に全運営委員会が横の連絡を取り合つて、年に1回でも2回でも市の危機管理課も交えて合同の勉強会、実戦訓練の体験会等を含めて進めていただきたい。

南林間小・中・県立大和西高校 森園会長

今の関連で、危機管理課からの避難生活施設運営委員会についてはマニュアルが変わっていく。それはいいと思う。自主防災会とか自治会とかそれぞれの取り組みがバラバラで、その辺を一括して危機管理課が避難生活施設に関しては、この様に市は設定しているのを徹底して欲しい。何故徹底して欲しいかということ、実際ここを避難生活施設運営委員会と言うが、危機管理課は生活施設という形に言い方を変えている。実際、避難所運営というよりは避難生活施設といった方が現実的によく分かる。それを一貫した中での活動、委員会としてやってほしい。

それと、マニュアルの中で2～3年で変わってしまう施設を取り上げるとバラバラになるので、地域はやはりマニュアルに関しては、あそこで会長が何々の会長になると書かれていると、その通りになるので、その辺の検証も、皆さんの意見を聞きながら作っていただくとうありがたい。

実際この避難生活施設運営委員会は、その広域避難場所で運営する場所は、どういうところにあるかも悩みだと思うが、実際、本当に災害があつた時には何も無くなってしまうということを想定の中で立ち上げなくてはいけないというのを相互理解の上で取り組んでいければと感じた。

つきみ野中・県立大和高校 山元会長

避難所の運営と避難生活施設というのは大和市の防災計画があり、明日防災会議がある。

私はそのメンバーであるため、現状の平成28年度版で避難所になっている部分について、明日修正することを提案したい。

中央林間小学校 齋藤会長

うちの避難所は、近隣の4自治会で2年に1回宿泊を伴った訓練を行っており、昨年も11月に行ったが、もちろん災害は暑い時期、寒い時期いつ起こるか分からないので、昨年は11月の寒い時にやった。ちょっと天候も悪かったせいも、集まりも前回やった時よりも参加者がかなり少なかった。これは毎年だが、宿泊するのは本当にごく少なく、限られる。どうしたら呼べるかを模索しているが、難しい部分があり、本当に実際になってみないと皆さん感じないのかと。中には子ども連れで参加してくれる方が今回は3組ありました。意識の高い人もいるし、それから我々スタッフも、高齢化になっており、中々参加が少なくなってきた。自主防災会も本来ならば何年もやってもらい、変わりの方を見つけて、引き継いでくれればいいが、そうはいかないということで、若い人達をいかに引き込むかというのが今一番の課題である。

引地台小学校 前畑会長

避難生活施設運営委員会の活用の中で、地元での自主防災会の一時的な活動というのは一時避難場所、地域の公園であったりする。そこの情報のやり取りが非常に気付きである。普通の簡易のトランシーバーだと届かない場合が多い。一次避難場所の状況と避難生活施設の状況が、やり取りがスムーズにいかないと人の収容も、物資の供給がどんな形でなされているのかも地元、地域に反映していかない。これは避難所運営施設単独の問題や委員会の役割ではないかもしれないが、どうしても一時避難場所に集まっている人達との情報の共有というところが、実際に携わっていて非常に心配で、この辺は仮にもうちょっと性能のいいトランシーバーなどをそれぞれ持つとなると費用負担がかかってくる。それはそれぞれの自主防災会で持てばいいとなればそれでいいのだろうが、出来ればその辺のところの支援がいただければ助かる。

つきみ野中・県立大和高校 山元会長

大和市には北と中と南があり、昭和無線というと45000円である。北と南の方はかなり持っている。中の辺りが抜けている。そしてそれは実現の方向で各自治会で持ちましようと話している。避難生活ではなしに、例えば催しもの、夏祭りとかに使えるからそういう時に訓練しながらやりましようという感じで皆さんに話している。45000円で3分の1の補助である。もっと周りネットワーク化してと考えている。

大和小学校前会長 鈴木会長

二つ申し上げます。一つはペット、コンパニオンアニマル。平成28年4月、市もよう

やく重い腰を上げてペットの避難所受け入れをやっとした。全国に2千万以上いると言われるから、犬猫限定ということでも相当数、避難所に来る。マニュアルを作ろうにも作れない。一番の先進県の兵庫県は相当進んでいる。狂犬病とか、動物には色々ある。健康診断など、受け入れ側についても非常に心配になっている。なるべく早く市民に万が一地震があつて避難所にペットオーケーといった時には、そういった飼い主が守るべきルールをしっかりと平時から告知を是非していただきたい。

先ほど一時避難所、居場所がない、我々大和小学校前会長も同じ。場所的には神奈川中央交通の車庫の辺だが、小さい公園が二つくらい。850の会員だから2500人。自治会内にある会社、お店、結構あり、そこと防災協定を7年前から進めている。パチンコ屋さんとか。神奈川中央交通の車庫の空き地とか。あとディーラーの空き地とか。まず空き地確保。

それからもう一つは、救援拠点としての拠点。だから人材も必要な時は応援して、後は機器類も例えばブルがあつたらブル出して。そういったことも文言を毎年契約更新している。営業所単位ですから所長が毎年代わる場合もある。毎年更新している。7年前から。今はだいたい4社から6社くらいやっているから相当居場所は出来た。ということ危機管理課にも提案しているけど、行政の方からも是非こういう指導をしていただきたい。どこもかしこも居場所がなくて困っている。一時避難場所、小さな公園ではすぐあふれてしまう。そうするとすべてが避難所に来るとのこと。一時避難場所があつても誰もきかない。食べ物は分からないけどトイレとか、屋根、空き地がある程度確保されるところを、自治会内の企業などを見て、相談しながら進めたいかがかという提案。

大和東小学校・県立大和東高校 中丸会長

地域との関わり合いということで、避難生活施設運営委員会を実際に災害になって立ち上げたという時には相当大きな災害のケースだと思う。その場合、それぞれの学校医、医療機関の協力がなければ、いくら救護班があつても無理なケースがあると思う。だから立ち上げた時には医療的な部分も急いでいただかないと何かあつた場合、有事の際には手遅れになると思う。早めをお願いする。

実際に体育館に宿泊体験をしてみたが、夏だったせいで窓を閉めたら暑い。窓を開けたら虫が入ってきてどうしようもない。施設ということから体育館に網戸を考えたい。

渋谷小学校 武藤会長

地域との関わりで、避難生活施設運営委員会が私の方は渋谷小学校になっているけれども、特定避難場所がある。コミセンになっているが、コミセンの特定避難場所に特定の人が行く。特定の人が行った時にその人の状態で、医者なり、いろいろな関わる人が、まだ何も決まってない。それで私も先日下和田コミセンの方で一回開いたが、とりあえず場所はこ

こだと、なっているが避難場所からそこへ送られてきた時に、誰が診るのとか。それは何とかしてもらわなければ困る。

総務常任委員長

時間の都合もあるので大項目3番、4番、5番を一括して進める。

3番目、組織について、組織運営について、組織の在り方と課題について、どのようなお考えがあるのか。

4番目、避難訓練・受け入れ訓練について、避難訓練をどのように行っているのか。避難訓練の問題点・課題について先ほど話しもあったが、避難弱者についてどのような取り組みを行っているのか。

そして5番目、今後の避難生活施設運営委員会の在り方について、目標の実現に向けてどのような取り組みが必要と考えるか、自治会・自主防災会、避難生活施設運営委員会との今後の在り方についてお話を伺いたい。

光丘中学校 下田会長

学校でいつも会議をしており、学校側の厚意でお茶を出してもらっているが、人が集まれば当然、お金がかかる。それに何かやるにしてもお金がかかる。これでは活動のしようがない。だから財源を補助するか、自治会でやって下さいという方向性を出してもらわないと、勝手にやる訳にはいかない。例えばお金が無かったら誰が役員だって、名札も作れない。スタッフシャツも作れない。立ち上げたのはいいが一番肝心の資金源をどうしているのか、方向性を出してもらいたい。

上和田小学校・県立大和南高校 渋谷会長

それに関連した事だが、私も委員をやっており、書類、配り物、大量にある時は危機管理課でコピーをしてもらっているが、日頃5枚、10枚というものについては、自治会には持ち込めないで、自分のところでファックス用のものを使ってコピーしている。これは実費。一年行っているとトナーが減るのが早いですが、それをやらないと自分の受けた仕事が回らないので非常に困っている。私はこの3月で変わるからよいが、他の方が気の毒だ。

私共の方はそれぞれの受け持ち部署は、一年交代で回るようになっている。毎年必ず何かの部署は受けるということで、会長とか総務とかの部署は特に刷り物が増える。今は自腹でやっているが、もう少し何とか考えていただけたらと思う。

つきみ野中・県立大和高校 山元会長

全般的なことで、例えば今日発災したとする。避難生活施設というのは早くて二日後にしかできない。避難生活施設を開設する条件というのは、まず本部長の市長の指示がなければいけない。応急危険度判定士が、この建物は安全か判定しなければいけない。市の職

員と学校の校長が来なければいけない。それから運営委員会の構成員が集まらなければならない。第1次避難所に集まってくるのは、その周りの人たちが安全か安全じゃないかを確認するのが大事であって、その前に戻ると、大和市が想定している地震というのは、都心南部型直下地震。震度でいうと6弱。厚木とか周りは6強だが、大和は6弱。6弱だと家屋の倒壊はほとんどない。火災はある。そういった状況の中で今の避難生活施設は市の人口の2%くらいしかない。一時避難所に集まって家は大丈夫という方は戻りなさいと。家が火事になって住めないという人は、避難生活施設が出来るまで待たなければならない。二日たってようやく集まる。避難生活施設を開設するのは自主防災会が行う。自主防災会が開設して皆さん集まってきて落ち着いたたら、自主防災会は撤退して集まって来た人が運営を行う。だから我々自主防災会がやることは最初の開設。その開設はこのマニュアルに色々書いてあるので勉強しなければならない。

先ほど話したが、応急危険度判定士は市の職員だが、34人いる。それも大和市に住んでいる人は半分くらいしかいないから、いざという時には集まってこない。私はたまたま応急危険度判定士を持っている。市長と話しているが、民間人が協力する姿勢が出来ていない。私は個人的にやる。いざ発災して2日間右往左往することがあるので、一番言いたいのは、危機管理課を危機管理部くらいにして、もっと人間を増やさなければいけない。危機管理課の中で避難生活担当というのは二人しかいない。二人では出来ない。これは本当にお願ひする。

大和小学校前会長 鈴木会長

避難所の最高責任者CEOは誰か。自主防災会が7つ8つ集まって運営委員会を作る。平時の運営会長が災害時に本部長になる。それはあくまでも運営管理者。我々が訓練で重ねた運営マニュアルを粛々と実行しているかを管理するのが本部長。その上に責任者がいるはずだ。誰かも分かっていない。兵庫県の指針をみると市の職員が必ず2名いて、1名は避難所の管理職。その避難所の責任者とハッキリ書いてある。そういう風にしたらいかがかと危機管理課に提案しているが、是非皆さん方もよろしければフォローしていただければと。運営を管理することは我々も出来るが、運営管理「責任者」となったら、責任は持てない。そんなことを言ったら誰も運営管理委員長をする人がいなくなる。

つきみ野中学校・県立大和高校 山元会長

自主防災会の会長の役割は避難生活施設があるけれども、本当は避難生活施設に入る人は2%くらいで、残りの大部分は在宅で避難する。在宅の水、食料はどうするのかと自主防災会の会長がやらなければならない。こちらに大きなウエイトがあるのに、避難生活施設の会長は出来ない。私ももし地震が起きた場合には、自分のところで自主防災会のことを聞いて、避難生活施設は誰かに任せる。それはその為に訓練した人に任せればいいのであって、明確化しないと、避難生活施設は市の2%。その他の大勢が、水がない、食料が

ない、トイレがない、困っている時に、自助でやれば良いと言えばそれまでのこともあるが、これをやるのが、もっともっと大きな仕事。

上和田小学校・県立大和南高校 渋谷会長

避難所の運営の件で、災害が発災した時に、運営委員がどれだけの人が避難所に来てくれるかということについて、先週の木曜日に、それが議題になり、何人来られるかときいた時は、手を挙げた人が一人もいない。分からないというのが現状。だから先ほどの、発災してから一、二日、来られる人が来て、体育館なり生活場所を開放出来るか出来ないかという問題があるが、そこへこぎつけるか、こぎつけないかというのは、現場では今、議題に上っている。30分話してまとまらないのが現状。だから私は今、会長を行っている時点で地震が来ないように毎日願っている。私達でさえも本当に手をこまねいているという状況である。人数は12名だがそれが妥当かどうか。多いか少ないかの問題ではなくて、どうしたらよいのか、手の打ちようがないというのが現状である。

下福田小学校 富田会長

下福田小学校の避難生活施設運営委員会は、先ほどの避難生活施設の開設条件、これを元に大和市がすること、学校がすること、自主防災会がすること、この3つに分けて役割分担を明確にしていこうと、進めている。大和市の避難生活施設の開設条件、先ほど山元会長の方からもお話しいただいたが、もうちょっと緩やかにしていただければ、開設が速やかにいくと感じている。

そして、平常時と緊急時、うちは分けていて、いろいろなことが出来る。また学校では児童の確保など平常時ではいろいろある。自主防災会の方でも、その防災会の役員等も集合場所等を随時決めていくように進めていく。ぜひ大和市の方もこの辺の充実を十分お願いしたい。

南林間小・中・県立大和西高校 森園会長

整理すると自主防災会、避難生活施設運営委員会のバランスの中で、自分達の関わることをどう分けていくかということに関しては、それを全部ひっくるめた形で避難所運営という形の部分で取り組んでよいのか。その辺がちょっと整理しにくいという部分がある。

あと1点。机上の理論より実際の運営という言葉がよくあるが、リアルな部分で運営資金についてとても大きな問題だと思う。なぜかと言うと、ことがあるときには必ず経費がかかる。それに関してはあいまいにはいけないと思う。規約とか市の方から言われた、県、国から言われたと言うけれど、それがみんなに分かっていなかったら何にもならないと思う。その辺の部分に関して今後私も勉強していきたいと思うが、自治会長として地域の人にどう根付かせるか、これからの私達の役目かなと思っている。

山田委員

ただいまの皆様からのお話しで様々な課題が山積みだと思った。大事だと思っていることが3つほどある。森園会長からも話しがあったが、実際に何がどこにあって具体的にどのように避難生活施設を開設すればいいのかということを知っている人がいるということがとても大事だと思う。熊本の震災の時にも全然知らないよそから来た人が、避難施設の運営にかかわり、地元の住民の意思が通らなくなって大変だったという報道があったことは皆さんもお聞きになっていると思うが、そういったことをなくし、自分達の地域は自分達で運営して守っていくという意味からも開設準備の訓練が、非常に重要なのではないかと思う。開設準備の訓練は市に聞いたところ大半がやっているとのことであったが、是非積極的にやっていっていただければありがたいと思っている。

2つ目にマニュアルについて、国を受けて市が作っていったマニュアルは、先ほどもお話しがあったが、実際に訓練した経験の中から実態に合わせて使いやすく作っていくことが重要だと思っている。

それともう一つ。東日本大震災の時もそうだったが、女性の視点である。授乳をするのも他人の前でやらなければならないという状況や、目が覚めたら知らない男の人が隣に寝ていたという状況を、震災後すぐに応援に入った女性センターのセンター長からのお話しで聞いたが、避難生活時にそのような女性から出た色々な意見が、「こんな時にわがままである」と言われて結構大変だったと伺った。そこで女性の視点を最初からきちっと入れていくことが大切と考え防災会議に女性委員を増やしてもらいたいと市へ要望をしており、今年は4人いらっしゃるということなので、市の枠組みの中では女性の視点も入ると思うが、ぜひ現場で、実際に運営していく中で女性の視点を入れるため、女性を運営委員の中に入れていただくことも大切に考えていただきたい。

3つ目に指定避難所、生活施設に、弱者が来た時にその人たちにスペース、部屋を開設するようにと国からも示されている。市に伺ったら必要とあれば、すぐにでも状況を判断して特別教室とかを開いていくという話であるが、その辺のところもマニュアルにしっかり入れていただけると嬉しいと思う。

運営資金の事や、体育館というか避難施設自体のハードの面等は、今後私達議員の方もしっかりとチェックし、要望していきたいと思う。

小倉委員

先ほどから皆さんから貴重な御意見をたくさんいただいたが、今回、こういう形で避難生活施設の確保という部分では、鈴木前会長から近くの民間企業の倉庫等も色々と防災協定を考えているということを知り、自分が仕事をしている中で一つも声がかかってこない施設がある。それは市内に17ある幼稚園と45個ある認可保育園。これだけの施設が毎日稼働している中で、もしそういう避難があった時に当然、そういう施設だって使ってもいいと。自分が運営している中、他の園長から余計なことを言うなと言われるかもしれ

ないが、そういう協定を結ぶことは有りではないかと思っている。これはあくまでも私一人の発言で、協会とか団体の中には全くお願いしていないので、そういうことも協力出来るのではということで案として提案したいと思う。

木村委員

2点ほどあり、1点目は先ほど活動するにあたって、財源というか予算的な話しが出たわけだが、この間の総務常任委員会委員7人で行った勉強会、危機管理課を交えて行ったが、その時の話しでは、避難生活施設運営委員会は、これはあくまでも自主的な運営が趣旨であるということで、市としての後方支援としては、先ほども話しが出たが、コピーの使用程度は可能とのこと。この件も知らない避難生活施設運営委員会の方もいらっしゃるかもしれないので、これは是非皆さんからも話してもらった方がいいかと話していた。防災の備品等については当然市で補助はされている。これは従来通り制度は続けていく。活動にあたっての活動資金については自主的な運営が趣旨ということで、その辺は是非よろしくお願ひしたい。

あと1点、避難所において我々が会長であるが、万が一の時に責任者は中々難しいよという話があった。これはマニュアルにも載っており、この間の勉強会で危機管理課も言っていたが、33か所の小中高校を利用する、その施設管理者は当然、この避難所になった場合は、学校長か教頭になっていただくようである。運営についての責任の点は確認しなくてはいけない。

阪神淡路大震災の体験者から聞いた話で、この辺で実際そうなった場合、その場面その場面を把握して、的確に状況判断して連携して動ける人が何人いるか、そこの責任者が校長であり教頭であり自治会長であり、あるいはボランティア等になるだろうが、要はこの辺が一番大事になるだろうという話しをされていたので、これは皆さん十分ご承知かと思うが、参考までに申し上げる。

総務常任委員長

話しは尽きないところだが、時間の都合上、この後スケジュールのある方もいるため一旦しめさせていただきます。

この意見交換会はあくまでもお互いの気づきの場として活用していただきたいと考えている。市議会に対する要望はその可否を含めて検討する。また執行機関等に対する要望については、あくまでも参考としてお聞きすることとしているので、この辺ご了解をいただきたい。

総務常任副委員長

皆さん長時間にわたり活発な、とりわけ議会にとっては大変有意義な話し合いであった。総務常任委員会委員が7人、傍聴議員が7人、議長もということで議会は15人参加して

いる。2月の末からは3月議会、予算議会が始まる。皆さんからいただいた貴重な御意見を市政に反映するために、私達も頑張りたい。また皆さんからはこの機会に是非、避難生活施設運営委員会の全体的な組織を作って欲しいとのお声もいただいた。その辺も市に伝えていきながら、頑張っていきたい。本日はどうもありがとうございました。